事例No.	2572
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	栃木県農業試験場いちご研究所

事例区分	地域活性化

タグ	・人材確保・育成 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

栃木県農業試験場いちご研究所

出典

平成26年度ふるさとづくり大賞事例集

栃木県農業試験場いちご研究所

概　　要



栃木県のいちご生産は、昭和40年代にめざましい発展を遂げ、作付面積が全国一位となる中で、北関東の気候風土に適した品種の開発が求められた。本試験場では昭和44年から、食味が良く長期間栽培できる新品種開発試験に取り組んだ結果、促成栽培用、夏秋どり用など、計８品種を開発育成するとともに、大本となる原々苗の供給を通じて「いちご王国」の維持・発展を図ってきた。

評価された点



・いちご王国の発展に寄与されたことは大きな成果。
・実用性の高いいちごの品種開発により、一次産業から６次産業までの産業が活性化されることにつなげている。
・いちごの新品種の開発、育成を通じて、日本一のいちご産地の座を維持、発展させるのに寄与してきた。いちご生産農家の経営も向上し、農業の後継者不足が課題となる中で、県内の新規就農者は毎年、30人～50人に上っている。
・栃木県を「いちご王国」とならしめた源。6次産業化、農商工連携の好モデルを推進。
・全国的ないちごブランド「とちおとめ」を安定的に供給させるとともに、新たな用途、消費者のニーズに応えるための品種改良への取組が評価できる。

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

概　　要



愛媛県南予地域の基幹産業として日本一の生産を誇る魚類養殖業の発展と生産者の所得向上を図るため、みかんフィッシュの開発等により養殖魚をいかに高く売るか、いかに安く良い魚を作るか、いかに需要を増やすかといった、消費や販売までを含めた観点から多岐にわたる研究テーマに取組み、地域に密着した試験研究機関として、地域の基幹産業を支える技術開発を行い、成果を上げている。

評価された点



・地域の基幹産業としての魚類養殖について、我が国が直面する食糧問題と地方問題の解決に向けた商品の生産、販売、消費を総合的な視点で捉えた取り組みであり、高く評価。
・研究をすすめていく過程、目的など、その背景に地域の産業を活性化するという明確でぶれない視点があり、地域に密着した活動となっている。
・研究の領域を超え、売る、作る、需要を増加させるというマーケット領域に踏み込んでいる。
・特産農業生産物を漁業に活かす発想力。研究、開発に留まらず、実需創出に寄与し、海外進出にも繋げている。
・地域の農林水産業を代表する生産物のハイブリッド＝高付加価値商品を生み出し、生産者の所得向上や地元愛媛の地域ブランド力向上に大きく寄与している点が評価できる。